



## ● CIR と共に取り組む多文化共生 & 国際交流 —— 岐阜県美濃加茂市 多文化共生推進室

### 多文化共生 City 美濃加茂

美濃加茂市は岐阜県の中南部に位置し、雄大な木曾川と緑豊かな山、地元産の美味しい野菜や果物など自然に恵まれた市です。

また、名古屋市から1時間という便利な立地もあり、2020年6月までは人口増加を成し遂げてきました。また、多くの外国籍の方が居住し、現在の外国人市民の割合は総人口のおよそ10%。国籍別では、フィリピンとブラジルが8割を超え、殆どが永住者や定住者です。

市は、外国人を「同じまちで共に生活するパートナー」と位置づけ、情報提供の多言語化や外国人児童生徒の教育体制の充実などにも先駆けて取り組んできました。新型コロナウイルス感染症が蔓延する今、外国人市民と共に生きていくため、新しい市の在り方が求められています。

そんな美濃加茂市には、2名のCIRが勤務しています。オーストラリア出身のホフマン・ジャレさんとフィリピン出身のグレース・タンポコさんです。

### 姉妹都市オーストラリア・ダボ市との繋がり

美濃加茂市とオーストラリアのダボ市は、1989年に姉妹都市提携を結んで以来、中高生の相互派遣などを行って交流を深め、2019年には提携30周年を迎えました。

2019年10月、ダボ市長一行（総勢21名）受入れの際には、ホフマンさんがダボ市との事前やり取りや市内アテンドまで一手に引き受け、奔走しました。

自ら美濃加茂市中山道や姫行列の歴史を学び、ダボ市長に説明しました。

同年11月には美濃加茂市長一行使節団の一員として、ダボ市に同行。オーストラリアでは、スピーチを話す前に感謝と敬意を示す「Welcome to Country」という慣習があります。この慣習をホフマンさんが美濃加茂市

長に紹介したことで、美濃加茂市長が現地で初めてこの慣習を行い、歓喜の声で迎えられました。

また、ホフマンさんが市長の通訳を行う中で、オーストラリアの文化や美濃加茂市側の思いを忠実に伝えた甲斐もあり、ダボ市との繋がりをより強固にできた渡豪となりました。

英語、日本語、スペイン語、ポルトガル語を自在に操るホフマンさん。語学力だけでなく、市民に寄り添うスタイルで通訳を行い、相手の心をしっかりと掴みます。姉妹都市との関係はもちろん、美濃加茂市のインバウンド施策でも更なる活躍が期待されています。



姉妹都市提携30周年記念式典の通訳



姉妹都市交流派遣生受入時の通訳

## グレース先生の日本語教室

何十年も日本で生活していながら、初歩的な日本語も話すことができない外国人市民が多くいるという問題に気づき、日本語教室の先生として教壇に立つグレースさん。

モットーは、「日常生活で使える日本語」「学びたいと思える日本語」を教えること。テキストに頼らず、自作で市内地図を作成し、「どのように伝えたら、目的地にたどり着けるか」や「子どもが塾を出した時、どこに電話してどう伝えるか。病院に着いたら何を伝えるか」など普通の生活で起こりうるケースを考え、実践的に使える日本語を教えています。

授業中は生徒達の楽しそうな声が聞こえ、期間終了まで通い続ける生徒が多く、修了証書もらった生徒の中には、市の災害時等通訳サポーターに登録してくれる人もいます。

コロナ禍で授業への直接参加が難しい時は Zoom を活用したり、会わなくてもできる交流企画「e フレンド」を打ち出したりしました。「e フレンド」とは、日本語



日本語教室にて指導

を学びたい外国人市民と応募した市職員が日本語でメールのやり取りを行い、互いを知り楽しく交流することで、日本語の学習もできるというものです。

常に今できる事を考え、実践していくグレースさん。次々に新しいアイデアを出して挑戦し続けるグレースさんの活躍から目が離せません。

## 外国人市民を新型コロナウイルスから守れ!

日本、世界中で新型コロナウイルス感染症が蔓延している今、美濃加茂市も新型コロナウイルスと奮闘中です。日本人より家族の単位が大きく、親戚との結びつきが強い外国人市民の間で感染者が増えている問題もあり、どのようにして市民を守っていくか、市の多文化共生推進室のメンバーと共に CIR の 2 人も対策案を出し合っています。

市の社会福祉協議会と協力し、貸付制度の通訳を行ったり、必要な情報を翻訳してメールや Facebook でいち早く流したり、外国人市民向けに注意喚起動画も作成しました。

こんなに市民に近く、市民に寄り添う CIR は、ホフマンさん、グレースさん以外いないのではないのでしょうか。

通訳・翻訳業務に日本語教室、美濃加茂市を PR するインバウンド、市内小学生への英語教室、新型コロナウイルス感染症対策…。ホフマンさんとグレースさんの活躍の場所は、さらに広がっていきます。

コロナ禍で新しい試みや形態が求められる中、今後のお 2 人の更なる活躍を期待していきましょう。



市内特産品の PR 動画作成